

平成 30年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（令和元年度調査）
医療従事者の負担軽減、働き方改革の推進に係る評価等に関する
実施状況調査

- ※ この施設票は、医療機関の開設者・管理者の方に、貴施設におけるチーム医療の実施状況や、医療従事者の負担軽減に関する取組とその効果、今後の課題等についてお伺いするものです。
- ※ ご回答の際は、あてはまる番号を○（マル）で囲んでください。また、（ ）内には具体的な数値、用語等をご記入ください。（ ）内に数値を記入する設問で、該当なしは「0（ゼロ）」を、わからない場合は「-」をご記入ください。
- ※ 特に断りのない質問については、令和元年6月末時点の状況についてご記入ください。
- ※ 「平成29年6月」と記載の質問については平成29年6月1か月間の状況を、「平成30年6月」と記載の質問については平成30年6月1か月間の状況を、「令和元年6月」と記載の質問については令和元年6月1か月間の状況をご記入ください。
- ※ 災害に被災した等の事情により回答が困難な場合には、事務局へご連絡くださいますようお願い申し上げます。

1. 貴施設の概要についてお伺いします。

①開設者 ※○は1つだけ	01. 国 02. 公立 03. 公的 04. 社会保険関係団体 05. 医療法人 06. 会社 07. その他の法人 08. 個人 （社会医療法人除く） ※国：国、独立行政法人国立病院機構、国立大学法人、独立行政法人労働者健康安全機構、国立高度専門医療研究センター、独立行政法人地域医療機能推進機構 公立：都道府県、市町村、地方独立行政法人 公的：日赤、済生会、北海道社会事業協会、厚生連、国民健康保険団体連合会 社会保険関係：健康保険組合及びその連合会、共済組合及びその連合会、国民健康保険組合 医療法人：医療法人 会社：株式会社等 その他の法人：社会医療法人、公益法人、医療生協、その他の法人
②承認等の状況 ※ あてはまる番号すべてに○	01. 高度救命救急センター 02. 救命救急センター 03. 災害拠点病院 04. へき地医療拠点病院 05. 総合周産期母子医療センター 06. 地域周産期母子医療センター 07. 小児救急医療拠点病院 08. 特定機能病院 09. 地域医療支援病院 10. 二次救急医療機関 →二次救急医療体制：（ア. 病院群輪番制 イ. 拠点型 ウ. 共同利用型） →（病院群輪番制の場合）当番となる頻度： （ア. 月に1回未満 イ. 月に1～4回 ウ. 月に5～8回 エ. 月に9～12回 オ. 月に13回以上） ※病院群輪番制：地域内の病院群が共同連帯して、輪番方式により救急患者の受入態勢を整えている場合をいう。 拠 点 型：病院群輪番制の一つで、365日に入院を要する救急患者の受入体制を整えている場合をいう（いわゆる「固定輪番制」や「固定通年制」等も含む）。 共同利用型：医師会立病院等が休日夜間に病院の一部を開放し、地域医師会の協力により実施するものをいう。 11. 専門病院（主として悪性腫瘍、循環器疾患等の患者を入院させる保険医療機関であって高度かつ専門的な医療を行っているものとして地方厚生（支）局長に届け出たもの） 12. 上記のいずれも該当しない

③標榜診療科 ^{注1} ※あてはまる番号 すべてに○	01. 内科系	02. 皮膚科	03. 小児科	04. 精神科
	05. 外科系	06. 泌尿器科	07. 脳神経外科	08. 整形外科
	09. 眼科	10. 産婦人科・産科	11. リハビリテーション科	12. 放射線科
	13. 麻酔科	14. 救急科	15. 耳鼻咽喉科	
	16. 歯科・歯科口腔外科	17. その他		

④DPC 対応状況 ※○は1つだけ	01. DPC対象病院	02. DPC準備病院	03. DPC対象病院・準備病院以外
-------------------	-------------	-------------	--------------------

⑤貴施設における、令和元年6月の紹介率、逆紹介率^{注2}をご記入ください。

1) 紹介率	%	2) 逆紹介率	%
--------	---	---------	---

注1. 内科系：内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、腎臓内科、糖尿病内科、血液内科、感染症内科、アレルギー内科、リウマチ内科、心療内科、神経内科等

外科系：外科、呼吸器外科、心臓血管外科、乳腺外科、気管食道外科、消化器外科、肛門外科、小児外科等

注2. 紹介率：（紹介患者数＋救急患者数）÷ 初診の患者数×100

逆紹介率：逆紹介患者数÷初診の患者数×100

※初診の患者数、紹介患者数、逆紹介患者数、救急患者数の定義については初診料及び外来診療料に係る診療報酬上の定義に従ってください。一般病床が200床未満の病院の場合も地域医療支援病院で用いられる定義に従ってください。

⑥貴施設において届出を行っている入院基本料^{注3}は何ですか。※あてはまる番号すべてに○

01. 一般病棟入院基本料 →	<table border="0"> <tr> <td>01. 急性期一般入院料 1</td> <td>02. 急性期一般入院料 2</td> </tr> <tr> <td>03. 急性期一般入院料 3</td> <td>04. 急性期一般入院料 4</td> </tr> <tr> <td>05. 急性期一般入院料 5</td> <td>06. 急性期一般入院料 6</td> </tr> <tr> <td>07. 急性期一般入院料 7</td> <td>08. 地域一般入院料 1</td> </tr> <tr> <td>09. 地域一般入院料 2</td> <td>10. 地域一般入院料 3</td> </tr> </table>	01. 急性期一般入院料 1	02. 急性期一般入院料 2	03. 急性期一般入院料 3	04. 急性期一般入院料 4	05. 急性期一般入院料 5	06. 急性期一般入院料 6	07. 急性期一般入院料 7	08. 地域一般入院料 1	09. 地域一般入院料 2	10. 地域一般入院料 3					
01. 急性期一般入院料 1	02. 急性期一般入院料 2															
03. 急性期一般入院料 3	04. 急性期一般入院料 4															
05. 急性期一般入院料 5	06. 急性期一般入院料 6															
07. 急性期一般入院料 7	08. 地域一般入院料 1															
09. 地域一般入院料 2	10. 地域一般入院料 3															
02. 療養病棟入院基本料 →	<table border="0"> <tr> <td>01. 療養病棟入院料 1</td> <td>02. 療養病棟入院料 2</td> </tr> <tr> <td>03. 療養病棟入院基本料 注11^{※1}</td> <td>04. 療養病棟入院基本料 注12^{※2}</td> </tr> <tr> <td colspan="2">夜間看護加算 (01. 届出あり 02. 届出なし)</td> </tr> </table>	01. 療養病棟入院料 1	02. 療養病棟入院料 2	03. 療養病棟入院基本料 注11 ^{※1}	04. 療養病棟入院基本料 注12 ^{※2}	夜間看護加算 (01. 届出あり 02. 届出なし)										
01. 療養病棟入院料 1	02. 療養病棟入院料 2															
03. 療養病棟入院基本料 注11 ^{※1}	04. 療養病棟入院基本料 注12 ^{※2}															
夜間看護加算 (01. 届出あり 02. 届出なし)																
03. 結核病棟入院基本料 →	<table border="0"> <tr> <td>01. 7対1</td> <td>02. 10対1</td> <td>03. 13対1</td> <td>04. 15対1</td> </tr> <tr> <td>05. 18対1</td> <td>06. 20対1</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	01. 7対1	02. 10対1	03. 13対1	04. 15対1	05. 18対1	06. 20対1									
01. 7対1	02. 10対1	03. 13対1	04. 15対1													
05. 18対1	06. 20対1															
04. 精神病棟入院基本料 →	<table border="0"> <tr> <td>01. 10対1</td> <td>02. 13対1</td> <td>03. 15対1</td> <td>04. 18対1</td> </tr> <tr> <td>05. 20対1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	01. 10対1	02. 13対1	03. 15対1	04. 18対1	05. 20対1										
01. 10対1	02. 13対1	03. 15対1	04. 18対1													
05. 20対1																
05. 特定機能病院入院基本料 →	<table border="0"> <tr> <td>一般病棟</td> <td>(01. 7対1</td> <td>02. 10対1)</td> </tr> <tr> <td>結核病棟</td> <td>(01. 7対1</td> <td>02. 10対1 03. 13対1)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(04. 15対1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>精神病棟</td> <td>(01. 7対1</td> <td>02. 10対1 03. 13対1)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(04. 15対1</td> <td></td> </tr> </table>	一般病棟	(01. 7対1	02. 10対1)	結核病棟	(01. 7対1	02. 10対1 03. 13対1)		(04. 15対1		精神病棟	(01. 7対1	02. 10対1 03. 13対1)		(04. 15対1	
一般病棟	(01. 7対1	02. 10対1)														
結核病棟	(01. 7対1	02. 10対1 03. 13対1)														
	(04. 15対1															
精神病棟	(01. 7対1	02. 10対1 03. 13対1)														
	(04. 15対1															
06. その他の入院基本料 →	(01. 7対1 02. 10対1 03. それ以外)															

注3. 専門病院入院基本料、障害者施設等入院基本料については、その他の入院基本料としてご回答ください。

※1 看護職員配置が20対1未満または医療区分2・3の患者割合50%未満の場合

※2 看護職員配置が25対1未満の場合

⑥-1 上記⑥で、以下の入院基本料のいずれかを選んだ施設にお伺いします。

- ・ 「01. 一般病棟入院基本料」の01～07
- ・ 「05. 特定機能病院入院基本料」の「一般病棟」の01又は02
- ・ 「06. その他の入院基本料」の01又は02

(1) 届出を行っている重症度、医療・看護必要度の種別（令和元年6月末時点）	01. 重症度、医療・看護必要度 I 02. 重症度、医療・看護必要度 II
(2) 重症度、医療・看護必要度に係る基準を満たす患者の割合 ^{注4} ※ I 又は II どちらも算出している場合は両方お答えください。	重症度、医療・看護必要度 I () % 重症度、医療・看護必要度 II () % ※平成31年4月～令和元年6月（3か月間の平均）

注4. 「一般病棟用の重症度、医療・看護必要度」のモニタリング及び処置等に係る得点（A得点）2点以上かつ患者の状況等に係る得点（B得点）3点以上、「診療・療養上の指示が通じる（B14）」又は「危険行動（B15）」に該当する患者であって、A得点が1点以上かつB得点が3点以上、A得点3点以上又は手術等の医学的状況に係る得点（C得点）が1点以上を満たす患者割合。小数点以下第2位を切り捨てし、小数点第1位までご記入ください。

⑦貴施設において届出を行っている**特定入院料等**として該当するものは何ですか。※あてはまる番号すべてに○

- | | | |
|----------------------|-----------------------|---------------------|
| 01. 救命救急入院料 | 02. 特定集中治療室管理料 | 03. ハイケアユニット入院医療管理料 |
| 04. 脳卒中ケアユニット入院医療管理料 | 05. 小児特定集中治療室管理料 | 06. 新生児特定集中治療室管理料 |
| 07. 総合周産期特定集中治療室管理料 | 08. 新生児治療回復室入院医療管理料 | |
| 09. 小児入院医療管理料 | 10. 回復期リハビリテーション病棟入院料 | 11. 地域包括ケア病棟入院料 |
| 12. 地域包括ケア入院医療管理料 | 13. 特殊疾患病棟入院料 | 14. 緩和ケア病棟入院料 |
| 15. 精神科救急入院料 | 16. 精神科急性期治療病棟入院料 | 17. 精神科救急・合併症入院料 |
| 18. 児童・思春期精神科入院医療管理料 | 19. 精神療養病棟入院料 | |
| 20. 認知症治療病棟入院料 | 21. 地域移行機能強化病棟入院料 | 22. 短期滞在手術等基本料 |

⑧貴施設における許可病床数^{注5}をご記入ください。「療養病床」には介護療養病床も含めてください。

注5. 医療法に基づく病床数

1) 一般病床	2) 療養病床	3) 精神病床	4) 結核病床	5) 感染症病床	6) 病院全体
床	床	床	床	床	床

⑨令和元年6月末時点で、貴施設で従事している医療従事者等の常勤・非常勤（常勤換算）別の職員数^{注6}をご記入ください。

	常勤	非常勤（常勤換算） ^{注7}
1) 医師	人	人
2) 歯科医師	人	人
3) 保健師・助産師・看護師	人	人
4) 准看護師	人	人
5) 看護補助者	人	人
6) 歯科衛生士	人	人
7) 薬剤師	人	人
8) 臨床検査技師	人	人
9) 管理栄養士	人	人
10) 理学療法士	人	人
11) 作業療法士	人	人
12) 言語聴覚士	人	人
13) 医師事務作業補助者	人	人
14) MSW（社会福祉士等）	人	人
15) その他	人	人
16) 合計	人	人

注6. 全ての職種について産休中や育児休職中等の職員は含めないでください。

注7. 常勤換算については以下の方法で算出してください。常勤換算後の職員数は、小数点以下第1位までお答えください。

■ 1週間に数回勤務の場合：（非常勤職員の1週間の勤務時間）÷（貴施設が定めている常勤職員の1週間の勤務時間）

■ 1か月に数回勤務の場合：（非常勤職員の1か月の勤務時間）÷（貴施設が定めている常勤職員の1週間の勤務時間×4）

⑩平成29年6月、令和元年6月の各1か月間における貴施設の**入院延べ患者数、外来延べ患者数、分娩件数、全身麻酔による手術件数**について、それぞれ該当する人数または件数をご記入ください。

	平成29年6月	令和元年6月
(1) 入院延べ患者数 ^{注8}	人	人
1) 一般病棟（特定入院料を除く）における入院延べ患者数	人	人
2) 時間外・休日・深夜に入院した延べ患者数	人	人
3) 救急搬送により緊急入院した延べ患者数	人	人

	平成29年6月	令和元年6月
(2) 外来延べ患者数	人	人
1) 緊急自動車等により搬送された延べ患者数	人	人
2) 時間外・休日・深夜加算の算定件数	件	件
(3) 分娩件数	件	件
(4) 全身麻酔による手術件数	件	件

注8 入院延べ患者数：毎日24時現在の在院患者数（即日退院患者数を含む）を30日分合計した患者数。

2. 各診療報酬項目の施設基準の届出状況及び算定件数等についてお伺いします。

①「総合入院体制加算」の届出状況として該当するものをお選びください。※○は1つだけ

01. 総合入院体制加算 1 を届出ている	→①-2へ
02. 総合入院体制加算 2 を届出ている	} ①-1、①-2へ
03. 総合入院体制加算 3 を届出ている	
04. 総合入院体制加算を届出していない	→①-1へ

①-1 上記①で、「02」～「04」のいずれかを選んだ施設にお伺いします。

総合入院体制加算 1 について、満たすことが困難な要件は何ですか。※あてはまる番号すべてに○

01. 年間の手術等の件数
ア. 全身麻酔による手術の件数が年間800件以上
イ. 人工心肺を用いた手術の件数が年間40件以上
ウ. 悪性腫瘍手術の件数が年間400件以上
エ. 腹腔鏡下手術の件数が年間100件以上
オ. 放射線治療（体外照射法）の件数が年間4,000件以上
カ. 化学療法の件数が年間1,000件以上
キ. 分娩の件数が年間100件以上
02. 救急自動車等による搬送件数が年間2,000件以上
03. 精神科について、24時間対応できる体制を確保している
04. 精神病床を有しており、精神病棟入院基本料等を届出で、現に精神疾患患者の入院を受入れている
05. 「精神科リエゾンチーム加算」または「認知症ケア加算 1」の届出を行っている
06. 「精神疾患診療体制加算 2」の算定件数又は救急患者の入院 3 日以内における「入院精神療法」もしくは「救命救急入院料の注 2 の加算」の算定件数が合計で年間20件以上
07. 療養病棟入院基本料 または 地域包括ケア病棟入院料（入院医療管理料）を届出していない
08. 画像診断 及び 検査を、24時間実施できる体制を確保している
09. 薬剤師が夜間当直を行うことにより、調剤を24時間実施できる体制を確保している
10. 総退院患者のうち、診療情報提供に係る加算を算定する患者及び治癒し通院不要な患者が4割以上である
11. 内科、精神科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、及び産科（産婦人科）を標榜し、入院医療を提供している
12. 連携医療機関への転院を円滑にするための地域連携室の設置
13. 医療従事者の負担軽減及び処遇改善に資する体制の整備
14. 貴院の敷地内が禁煙であること（緩和ケア病棟等の一部の病棟では分煙可）
15. 分煙を行う場合は、非喫煙場所にタバコの煙が流れないようにし、適切な受動喫煙防止措置を講ずること
16. 一般病棟用の重症度、医療・看護必要度Ⅰの該当患者割合が 3 割 5 分以上、一般病棟用の重症度、医療・看護必要度Ⅱの該当患者割合が 3 割以上（総合入院体制加算 3 は一般病棟用の重症度、医療・看護必要度Ⅰの該当患者割合が 3 割 2 分以上、一般病棟用の重症度、医療・看護必要度Ⅱの該当患者割合が 2 割 7 分以上）
17. 同一建物内に特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、介護医療院又は介護療養型医療施設を設置していない
18. その他（具体的に

①-2 上記①で、「01」～「03」のいずれかを選んだ施設にお伺いします。

医療従事者の負担の軽減及び処遇の改善に資する計画の具体的な取組内容について、該当するものすべてをお選びください。※あてはまる番号すべてに○

- 01. 外来診療時間の短縮、地域の他の保険医療機関との連携などの外来縮小の取組
- 02. 院内保育所の設置
- 03. 医師事務作業補助者の配置による病院勤務医の事務作業の負担軽減
- 04. 病院勤務医の時間外・休日・深夜の対応についての負担軽減及び処遇改善
- 05. 看護補助者の配置による看護職員の負担軽減

②平成30年度診療報酬改定では、常勤配置に関する要件の緩和が行われました。

(1) 以下の各職種について、非常勤職員を常勤換算して配置することで施設基準を満たしている診療報酬項目があるかどうかについて、それぞれご回答ください。※それぞれ○は1つだけ

(2) 上記(1)で「1.有」を選択した場合、当該診療報酬項目を具体的にご記入ください。

	(1) 非常勤職員を常勤換算して配置することで施設基準を満たしている診療報酬項目の有無		(2) 非常勤職員を常勤換算して配置することで施設基準を満たしている診療報酬項目 (具体的に記入)
	有	無	
1) 医師	1	2	
2) 看護職員	1	2	
3) 薬剤師	1	2	
4) 理学療法士	1	2	
5) 作業療法士	1	2	
6) その他	1	2	



③平成30年度診療報酬改定で常勤配置に関する要件が緩和された項目以外に、常勤配置に関する要件の緩和を希望する診療報酬項目はありますか。あれば当該診療報酬項目を具体的にご記入ください。

④平成29年6月末、令和元年6月末時点における、医師事務作業補助体制加算の届出状況としてあてはまるものに○をつけてください。※○はそれぞれ1つずつ

1) 平成29年 6月末	01. 届出をしていない 02. 医師事務作業補助体制加算 1 03. 医師事務作業補助体制加算 2 →届出している場合の内訳 ----- 01. 1 0 0 対 1 02. 7 5 対 1 03. 5 0 対 1 04. 4 0 対 1 05. 3 0 対 1 06. 2 5 対 1 07. 2 0 対 1 08. 1 5 対 1 -----
2) 令和元年 6月末	01. 届出をしていない →次ページ④-1へ 02. 医師事務作業補助体制加算 1 03. 医師事務作業補助体制加算 2 →届出している場合の内訳 ----- 01. 1 0 0 対 1 02. 7 5 対 1 03. 5 0 対 1 04. 4 0 対 1 05. 3 0 対 1 06. 2 5 対 1 07. 2 0 対 1 08. 1 5 対 1 -----

次ページ④-2へ

【届出をしていない施設の方】

④-1 届出をしていない理由は何ですか。 ※あてはまる番号すべてに○

01. 施設基準を満たすことが難しいため
→満たすことが難しい基準の内訳：
- 11. 病院機能に関する基準
(例：15対1の場合は第三次救急医療機関、小児救急医療拠点病院、総合周産期医療センターのいずれかであること等)
 - 12. 年間の緊急入院患者数に関する基準 (例：15対1の場合は年間800名以上であること等)
 - 13. 全身麻酔による手術件数に関する基準
(例：20対1～40対1の場合は年間800件以上であること (但し年間の緊急入院患者数が200名以上の場合は届出可))
02. 医師事務作業補助者の確保が難しいため
03. 加算の要件に沿った医師事務作業補助者の配置のメリットが少ないため
04. その他 (具体的に)

【届出をしている施設の方】

④-2 現在の体制の届出時期はいつですか。

西暦 () 年 () 月

④-3 医師事務作業補助者の配置人数 (常勤換算) を配置場所別にご記入ください。

※令和元年6月末時点
※複数か所で勤務している場合、勤務時間で人数を按分してそれぞれに記入してください。

1) 外来	人
2) 病棟	人
3) 医局・事務室等	人
4) 合計	人

④-4 平成29年6月末時点及び令和元年6月末時点の、各病棟における医師事務作業補助者の常勤・非常勤別の職員数 (実人数)、及び常勤換算した非常勤の職員数をご記入ください。

	平成29年6月末			令和元年6月末		
	常勤	非常勤 (実人数)	非常勤 (常勤換算 ^{注9})	常勤	非常勤 (実人数)	非常勤 (常勤換算 ^{注9})
1) 一般病棟	人	人	人	人	人	人
2) 精神病棟	人	人	人	人	人	人
3) 療養病棟	人	人	人	人	人	人
4) その他	人	人	人	人	人	人
5) 全病棟	人	人	人	人	人	人

④-5 医療従事者 (病院勤務医) の負担の軽減及び処遇の改善に資する計画の具体的な取組内容
※あてはまる番号すべてに○

01. 勤務計画上、連続当直を行わない勤務体制の実施
02. 前日の終業時刻と翌日の始業時刻の間の一定時間の休息時間の確保 (勤務間インターバル)
03. 予定手術前日の当直や夜勤に対する配慮
04. 当直翌日の業務内容に対する配慮
05. 交替勤務制・複数主治医制の実施
06. 短時間正規雇用医師の活用

注9. 常勤換算については以下の方法で算出してください。常勤換算後の職員数は、小数点以下第1位までお答えください。

- 1週間に数回勤務の場合：(非常勤職員の1週間の勤務時間) ÷ (貴施設が定めている常勤職員の1週間の勤務時間)
- 1か月に数回勤務の場合：(非常勤職員の1か月の勤務時間) ÷ (貴施設が定めている常勤職員の1週間の勤務時間×4)

3. 医師の勤務状況等についてお伺いします。

①貴施設の医師の勤務形態として該当するものをお選びください。※主にあてはまる番号1つに○

01. 単独主治医制^{注10}

02. 複数主治医制^{注11}

注10. 単独主治医制：1人の患者につき1人の主治医が担当する場合。

注11. 複数主治医制：1人の患者につき複数の主治医が担当する場合。勤務時間外に対応が必要となった場合、基本的に当番の医師が対応する体制を取っている場合も含む。

②貴施設における平成29年6月、令和元年6月の医師1人あたりの平均勤務時間(1か月間)、1人あたりの平均当直回数(1か月間)、連続当直を行った医師数をご記入ください。※小数点以下第2位を切り捨てし、小数点以下第1位まで

常勤の医師	平成29年6月	令和元年6月
1) (実績) 1人あたり平均勤務時間 ^{注12} /月	. 時間	. 時間
2) (実績) 1人あたりの平均当直回数/月	. 回	. 回
3) (実績) 連続当直を行った医師数/月	人	人
非常勤の医師	平成29年6月	令和元年6月
4) (実績) 1人あたり平均勤務時間 ^{注12} /月	. 時間	. 時間
5) (実績) 1人あたりの平均当直回数/月	. 回	. 回
6) (実績) 連続当直を行った医師数/月	人	人

注12. 勤務時間：所定労働時間の他、残業時間も含まれます。

③労働基準法の36(サブロク)協定の締結状況として該当するものをお選びください。※○は1つだけ

01. 締結している

02. 未締結であるため、今後締結を予定している

03. 未締結であるが、今後も締結の予定はない

④夜間医師が従事する業務に係る労働基準監督署の宿日直許可について該当するものをお選びください。※○は1つだけ

01. 全ての業務について許可を受けている

02. 許可を受けている業務と受けていない業務がある

03. 許可を受けている業務はない

4. 医師の負担軽減策に関する取組状況等についてお伺いします。

①貴施設の医師の労働時間の把握方法として該当するものをお選びください。※主なもの1つに○

01. ICカード・タイムカード

02. 上司等第三者の確認

03. 自己申告に基づき把握

04. その他(具体的に

) 05. 把握していない

②貴施設における長時間労働者に対する、医師による面接指導の実施状況として該当するものをお選びください。※○は1つだけ

01. 実施している

02. 実施していないが、今後実施を予定している

03. 実施しておらず、今後も実施する予定はない

04. 長時間労働者はいない

③貴施設の医師について、労働時間以外の勤務状況として把握している内容をお選びください。※あてはまる番号すべてに○

01. 年次有給休暇取得率

02. 育児休業の取得率

03. 介護休業の取得率

04. 代休取得率

05. その他(具体的に

)

06. 把握していない

④医師の負担軽減策について、医療勤務環境改善支援センターに相談しましたか。※○は1つだけ

01. 既に相談した

02. 今後相談する予定

03. 相談していない(相談の予定なし)

⑤貴施設における医師の負担軽減策についてお伺いします。

- (1) 貴施設で**医師の負担軽減策として実施されている取組**としてあてはまる番号全てに○をつけてください。※あてはまる番号すべてに○
- (2) 上記(1)で○をつけた取組について、**特に医師の負担軽減効果のある取組**としてあてはまる番号に**3つまで○**をつけてください。※○は3つまで

	(1) 実施されている 取組に○ (あてはまるもの すべてに○)	(2) 特に医師の負担軽減 効果のあるものに○ (○は3つまで)
(記入例) 4) 適正受診に関する患者・住民への周知・啓発	④ →	④
1) 医師の増員	1 →	1
2) 外来提供体制の縮小	2 →	2
3) 初診時選定療養費の導入	3 →	3
4) 適正受診に関する患者・住民への周知・啓発	4 →	4
5) 複数主治医制の導入	5 →	5
6) 勤務間インターバルの導入	6 →	6
7) 当直翌日の業務内容の軽減(当直翌日の休日を含む)	7 →	7
8) 時間外・休日・深夜に特定の医師に負担が集中しないような体制の整備	8 →	8
9) 患者・家族への病状説明を診療時間内に限定(緊急時を除く)	9 →	9
10) 予定手術前日の当直の免除	10 →	10
11) 医師業務の特定行為研修修了者との分担	11 →	11
12) 医師業務の看護師(「11」に示す看護師を除く)との分担	12 →	12
13) 医師業務の助産師との分担	13 →	13
14) 医師業務の薬剤師との分担	14 →	14
15) 医師事務作業補助者の病棟への配置	15 →	15
16) 医師事務作業補助者の外来への配置	16 →	16
17) ICTを活用した業務の見直し・省力化	17 →	17
18) 医師が出席する会議の開催回数の削減	18 →	18
19) 医師が出席する会議の所定就業時間内での開催(開始時刻の前倒し等)	19 →	19
20) 院内保育所の設置	20 →	20

⑥上記⑤以外の取組で、貴施設で実施している勤務医負担軽減策で、効果のある取組があれば、具体的にご記入ください。

--

⑦貴施設では、**多職種からなる役割分担の推進のための委員会又は会議**を開催していますか。開催している場合は、**年間の開催回数**もご記入ください。※○は1つだけ

01. 開催している→年間()回	02. 開催していない
-------------------	-------------

5. 看護職員や看護補助者の配置等についてお伺いします。

A. 看護職員や看護補助者の配置等

①救急搬送看護体制加算 ※○は1つだけ	01. 届出あり →①-1～①-3へ	02. 届出なし →②
①-1 当該加算の算定件数(令和元年6月1か月)	() 件	
①-2 救急用の自動車又は救急医療用ヘリコプターによる 年間の搬送件数 ※○は1つだけ	01. 200～399件 03. 600～799件 05. 1,000～1,499件 07. 2,000件以上	02. 400～599件 04. 800～999件 06. 1,500～1,999件
①-3 救急患者の受入への対応に係る専任の看護師の配置人数	() 人	
うち、院内トリアージ実施料に係る専任の看護師と兼ねている人数	() 人	

②看護補助加算 ※○は1つだけ ※地域一般入院基本料または13対1、15対1、18対1、20対1入院基本料を算定する病院のみ	01. 看護補助加算1	02. 看護補助加算2	03. 看護補助加算3
	→ a) 夜間75対1看護補助加算(40点)	(11. 届出あり	12. 届出なし)
	届出の予定 (11. 予定あり 12. 予定なし)	届出をしていない理由 (21. 職員確保が困難 22. 必要性がない 23. その他(具体的に))	
	b) 夜間看護体制加算(165点)	(11. 届出あり	12. 届出なし)
	届出の予定 (11. 予定あり 12. 予定なし)	届出をしていない理由 (21. 職員確保が困難 22. 必要性がない 23. その他(具体的に))	
04. 届出をしていない	→届出の予定 (11. 予定あり 12. 予定なし)	→届出をしていない理由 ※あてはまる番号すべてに○ (21. 職員確保が困難 22. 必要性がない 23. その他(具体的に))	

※以下の質問③～⑥は一般病棟のある施設のみご回答ください。
それ以外の方は11ページの6. ①へお進みください。

③急性期看護補助体制加算 ^{注13} ※○は1つだけ	01. 25対1(看護補助者5割以上) 03. 50対1 05. 届出をしていない	02. 25対1(看護補助者5割未満) 04. 75対1 →届出の予定(11. 予定あり 12. 予定なし) →届出をしていない理由 ※あてはまる番号すべてに○ (21. 職員確保が困難 22. 必要性がない 23. その他(具体的に))
④夜間急性期看護補助体制加算 ^{注14} ※○は1つだけ	01. 30対1 04. 届出をしていない	02. 50対1 03. 100対1 →届出の予定(11. 予定あり 12. 予定なし) →届出をしていない理由 ※あてはまる番号すべてに○ (21. 職員確保が困難 22. 必要性がない 23. その他(具体的に))
⑤夜間看護体制加算 ^{注14} ※○は1つだけ	01. 届出あり	02. 届出なし
⑥看護職員夜間配置加算 ^{注13} ※○は1つだけ	01. 12対1の「1」 04. 16対1の「2」 05. 届出をしていない	02. 12対1の「2」 03. 16対1の「1」 →届出の予定(11. 予定あり 12. 予定なし) →届出をしていない理由 ※あてはまる番号すべてに○ (21. 職員確保が困難 22. 必要性がない 23. その他(具体的に))

注13. 急性期一般入院基本料または特定機能病院入院基本料、もしくは専門病院入院基本料の7対1もしくは10対1入院基本料の算定病棟がある場合のみご回答ください。

注14. 急性期看護補助体制加算を算定する病棟がある場合のみご回答ください。

B. 看護職員の負担の軽減及び処遇の改善に係る取組

※以下の質問①～④は、急性期看護補助体制加算、看護職員夜間配置加算、看護補助加算、療養病棟入院基本料注13（夜間看護加算）のいずれかについて届出をしている施設のみご回答ください。それ以外の方は11ページの6. ①へお進みください。

①看護職員の負担の軽減及び処遇の改善に関する責任者として、該当するものをお選びください。	
01. 医師	→役職：11. 院長 12. 副院長 13. 医長 14. その他（具体的に）
02. 看護職員	→役職：11. 副院長 12. 看護部長 13. 師長 14. その他（具体的に）
03. その他（具体的に）	

②多職種からなる役割分担推進のための委員会等についてお尋ねします。	
※施設基準の届出から1年以上の実績がある場合には、実績に基づきご記載ください。実績が1年未満である場合には、年間の予定をご記入ください。	
(1) 委員会等の開催頻度	() 回/年
(2) 参加人数	平均() 人/回
(3) 参加職種	01. 医師 02. 看護師 03. 薬剤師 04. リハビリ職種 05. 臨床検査技師 06. 臨床工学技士 07. 事務職員 08. その他（具体的に）
(4) 既存の委員会の活用の有無	01. 活用している →具体的な会議名 () 02. 活用していない

③ 看護職員の負担の軽減及び処遇の改善に関する具体的な取組として実施しているものをお選びください。※あてはまる番号すべてに○	
01. 業務量の調整（時間外労働が発生しないような業務量の調整）	
02. 看護職員と他職種との業務分担 →業務分担をしている職種：（ 11. 薬剤師 12. 理学療法士、作業療法士、言語聴覚士 13. 臨床検査技師 14. 臨床工学技士 15. その他（具体的に） ）	
03. 看護補助者の配置・増員 →具体的内容：（ 11. 主として事務的作業を行う看護補助者の新たな配置 12. 主として事務的作業を行う看護補助者の増員 13. 夜間の看護補助者の新たな配置 14. 夜間の看護補助者の増員 15. その他（具体的に） ）	
04. 短時間正規雇用の看護職員の活用	
05. 多様な勤務形態の導入	
06. 妊娠・子育て中、介護中の看護職員に対する配慮 →具体的内容：（ 11. 院内保育所 12. 夜間保育の実施 13. 夜勤の減免措置 14. 休日勤務の制限制度 15. 半日・時間単位休暇制度 16. 所定労働時間の短縮 17. 他部署等への配置転換 ）	
07. 夜勤負担の軽減 →具体的内容：（ 11. 夜勤従事者の増員 12. 月の夜勤回数の上限設定 ）	
08. 夜勤に係る配慮 →具体的内容： 2交代の夜勤を実施している場合： （ 11. 勤務後の暦日の休日の確保 12. 仮眠2時間を含む休憩時間の確保 13. 16時間未満となる夜勤時間の設定 14. 仮眠が取れる環境・体制の整備（仮眠室等） 15. その他（具体的に） ） 3交代の夜勤を実施している場合： （ 11. 夜勤後の暦日の休日の確保 12. 勤務間インターバルの確保 13. その他（具体的に） ）	
09. その他（上記01～08以外）（具体的に）	

④ 看護職員の負担の軽減及び処遇の改善に資する計画の達成状況について、最も近い選択肢の番号をお選びください。

- | | |
|---------------------|----------------------|
| 01. 達成が困難である →④-1へ | 02. 達成はやや困難である →④-1へ |
| 03. 概ね達成可能である →6へ | 04. ほぼ達成可能である →6へ |
| 05. 評価時期に達していない →6へ | |

④-1 上記④で「01. 達成が困難である」又は「02. 達成はやや困難である」を選んだ施設にお伺いします。
p. 10 ③で選択した項目のうち、達成が困難である項目は何ですか。達成が困難な項目に○をつけた上で、達成が困難である理由を具体的にご記入ください。

「③」で○をつけた項目のうち、 達成が困難な項目に○			達成が困難である理由（自由記載）
01	業務量の調整	→	
02	看護職員と他職種との業務分担	→	
03	看護補助者の配置・増員	→	
04	短時間正規雇用の看護職員の活用	→	
05	多様な勤務形態の導入	→	
06	妊娠・子育て中、介護中の看護職員に対する配慮	→	
07	夜勤負担の軽減	→	
08	夜勤に係る配慮	→	
09	その他	→	

6. 医療従事者の勤務環境改善マネジメントについてお伺いします。

※以下の質問①～③は、総合入院体制加算を届出していない施設のみご回答ください。

それ以外の方は 12ページの7. ①へお進みください。

※「勤務環境改善マネジメント」とは、「医療機関がPDCAサイクルを活用して計画的に医療従事者の勤務環境改善に取り組む仕組み」を指します。

① 貴施設では、勤務環境改善マネジメントシステムを推進するチームがありますか。※○は1つだけ

01. チームがある 02. チームはないが、今後設置予定 03. チームはなく、今後設置予定もない

② 貴施設では、勤務環境改善の取組として、勤務環境の現状に関する実態把握や分析を行っていますか。
※○は1つだけ

01. 行っている →②-1へ 02. 行っていないが、今後実施予定 →③へ
03. 行っておらず、今後実施予定もない →③へ

②-1 上記②で、「01. 行っている」を選んだ施設にお伺いします。

どの程度の頻度で実態把握や分析を行っていますか。※○は1つだけ

01. 数か月に1度行っている 02. 1年に1度行っている
03. 2～3年に1度行っている 04. 定期的な実態把握や分析は行っていない

③ 貴施設では、勤務環境改善の取組について、計画を策定していますか。※○は1つだけ

01. 策定している →③-1へ 02. 策定していないが、今後策定予定 →7. ①へ
03. 策定しておらず、今後策定予定もない →7. ①へ

③-1 上記③で、「01. 策定している」を選んだ施設にお伺いします。

どの程度の頻度で計画の見直しを行っていますか。※○は1つだけ

01. 数か月に1度行っている 02. 1年に1度行っている
03. 2～3年に1度行っている 04. 4年以上見直しをしていない

7. 記録や会議に係る負担軽減に関する取組状況等についてお伺いします。

① 貴施設では、入院部門で電子カルテを導入していますか。 ※○は1つだけ

01. 導入している	02. 導入していないが、導入を検討中
03. 導入しておらず、導入予定もない	04. その他（具体的に)

② 貴施設では、ICTを活用した業務の見直し・省力化として、どのような取組をしていますか。
※あてはまる番号すべてに○

01. タブレットの活用	02. 音声入力システムの活用	03. ビデオ通話による会議の実施
04. 遠隔画像診断の実施	05. 遠隔病理診断の実施	06. 紹介状や診断書の入力支援ソフトの活用
07. その他（具体的に)	08. 特になし	

③ 医師が出席する院内の会議に関する負担軽減のために、どのような取組をしていますか。
※あてはまる番号すべてに○

01. 必要性の低い会議の廃止	02. 医師の出席義務の取りやめ
03. 会議の開催回数の削減	04. 会議の開催時間の短縮
05. ビデオ通話による会議の実施	06. 会議での紙資料の配付の中止
07. その他（具体的に)	08. 特になし

④ 医師の書類作成に関する負担軽減のために、どのような取組をしていますか。 ※あてはまる番号すべてに○

01. 必要性の低い書類の廃止	02. 書類の記載項目の簡素化
03. 医師事務作業補助者による下書きの作成	04. 電子カルテシステム等を活用した入力簡易化
05. その他（具体的に)	06. 特になし

⑤ 貴施設において、他の医療機関や訪問看護ステーション、薬局、居宅介護支援事業者等の関係機関の職員と情報共有・連携を行うために、ICT（情報通信技術）を活用していますか。また、活用している場合、どのようなICTを用いていますか。 ※あてはまる番号すべてに○

01. ICTを活用している →活用しているICT：	02. ICTは活用していない									
<table border="1"> <tr> <td>11.メール</td> <td>12.電子掲示板</td> <td>13.グループチャット</td> </tr> <tr> <td colspan="3">14.ビデオ通話（オンライン会議システムを含む）</td> </tr> <tr> <td colspan="3">15.その他（具体的に)</td> </tr> </table>	11.メール	12.電子掲示板	13.グループチャット	14.ビデオ通話（オンライン会議システムを含む）			15.その他（具体的に)			
11.メール	12.電子掲示板	13.グループチャット								
14.ビデオ通話（オンライン会議システムを含む）										
15.その他（具体的に)										

8. その他の状況についてお伺いします。

① 貴施設では「EPA（経済連携協定）に基づく介護福祉士候補者」、「在留資格『介護』の外国人留学生」、「介護職種の技能実習生」、「介護分野の1号特定技能外国人」を看護補助者として雇用していますか。

01. 雇用している →①-1へ	02. 雇用していない →9.へ
------------------	------------------

①-1 上記①で、「01.雇用している」を選んだ施設にお伺いします。
当該看護補助者の常勤・非常勤（常勤換算）別の人数をご記入ください。

	常勤	非常勤（常勤換算） ^{注15}
(1)「EPA(経済連携協定)に基づく介護福祉士候補者」 又は「在留資格『介護』の外国人留学生」の人数	人	人
(2)「介護職種の技能実習生」 又は「介護分野の1号特定技能外国人」の人数	人	人

注15. 常勤換算については以下の方法で算出してください。常勤換算後の職員数は、小数点以下第1位までお答えください。

■ 1週間に数回勤務の場合：（非常勤職員の1週間の勤務時間）÷（貴施設が定めている常勤職員の1週間の勤務時間）

■ 1か月に数回勤務の場合：（非常勤職員の1か月の勤務時間）÷（貴施設が定めている常勤職員の1週間の勤務時間×4）

9. 最後に、医師、看護職員等の医療従事者の負担軽減策、チーム医療の推進等についてご意見等ございましたらご自由にご記入ください。

施設票の質問は以上です。ご協力いただきまして誠にありがとうございました。
令和元年8月16日（金）までに実施要綱に記載された方法に従ってご提出ください。

平成30年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（令和元年度調査）
医療従事者の負担軽減、働き方改革の推進に係る評価等に関する実施状況調査

- 特に指定がある場合を除いて、令和元年6月末現在の状況についてお答えください。
- ご回答の際は、該当する番号を○（マル）で囲んでください。また、（ ）内には具体的な数値等をご記入ください。（ ）内に数値を記入する設問で、該当なしは「0（ゼロ）」を、わからない場合は「-」をご記入ください。

1. あなたご自身のことについてお伺いします。

① 性別	01. 男性 02. 女性	② 年齢	() 歳
③ 医師経験年数	() 年 () か月	④ 貴施設での勤続年数	() 年 () か月
⑤ 主たる所属診療科 ^{注1} ※○は1つだけ	01. 内科系 05. 外科系 09. 眼科 13. 麻酔科	02. 皮膚科 06. 泌尿器科 10. 産婦人科・産科 14. 救急科	03. 小児科 07. 脳神経外科 11. リハビリテーション科 15. 耳鼻咽喉科
⑥ 担当する主な病棟 ※○は1つだけ	01. 回復期リハビリテーション病棟 03. 小児入院病棟 05. その他の療養病棟 07. その他（具体的に	02. 地域包括ケア病棟 04. その他の一般病棟 06. 精神病棟	()
⑦ 役職等 ※○は1つだけ	01. 院長・副院長 04. その他の管理職の医師（具体的に	02. 部長・副部長 05. 非管理職の医師（06を除く）	03. 診療科の責任者（医長等） 06. 後期研修医
⑧ 勤務形態	01. 常勤	02. 非常勤	
⑨ 短時間勤務制度の利用	01. あり	02. なし	
⑩ 主治医制の状況 ^{注2}	01. 単独主治医制	02. 複数主治医制	03. その他

注1. 内科系：内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、腎臓内科、糖尿病内科、血液内科、感染症内科、アレルギー内科、リウマチ内科、心療内科、神経内科等

外科系：外科、呼吸器外科、心臓血管外科、乳腺外科、気管食道外科、消化器外科、肛門外科、小児外科等

注2. 単独主治医制：1人の患者につき1人の主治医が担当する場合

複数主治医制：1人の患者につき複数の主治医が担当する場合。勤務時間外に対応が必要となった場合、基本的に当番の医師が対応する体制を取っている場合も含む。

2. あなたの勤務状況等についてお伺いします。

① 貴施設（この調査票を受けとった病院）における、各設問で指定する期間におけるあなたの勤務時間、診療時間、当直回数及びオンコール回数等についてご記入ください。	
1) 1週間の勤務時間 ^{注3} （令和元年7月1日（月）～7月7日（日））	約 () 時間 () 分
2) 上記1)のうち、診療時間 ^{注4} （令和元年7月1日（月）～7月7日（日））	約 () 時間 () 分
3) 上記2)のうち、事務処理に係る時間（令和元年7月1日（月）～7月7日（日））	約 () 時間 () 分
4) 1か月間の当直回数 ^{注5} （令和元年6月1か月間）	() 回
5) 上記4)のうち、連続当直回数 ^{注5} （令和元年6月1か月間）	() 回
6) 1か月間のオンコール担当回数 ^{注6} （令和元年6月1か月間）	() 回
7) 上記6)のうち、呼出で実際に病院に出勤した回数（令和元年6月1か月間）	() 回

注3. 所定労働時間に残業時間を加えた時間

注4. 患者の診療、手術のために勤務した時間

注5. 土曜日・日曜日の日直は1回として数えてください。なお、連続当直回数とは当直翌日に当直が入っている日数を指します。

注6. 病院、診療科、診療科内のチーム等の組織において「オンコール担当」として当番となった回数

② 勤務時間をどのように勤務先に申告していますか。 ※○は1つだけ			
01. ICカード・タイムカード	02. 上司等第三者の確認	03. 自己申告	04. その他

③ 現在、この調査票を受け取った医療機関以外での勤務がありますか。 ※○は1つだけ

01. 他医療機関でも勤務している (⇒ ③-1へ)

02. 他医療機関では勤務していない (⇒ ④へ)

【上記③で「01. 他医療機関でも勤務している」と回答した方のみお答えください。】

③-1 この調査票を受け取った医療機関以外での、あなたの、令和元年6月1か月間の勤務時間、当直回数等についてご記入ください。

1) 他に勤務している医療機関数	() 施設
2) 1か月間の勤務時間	約 () 時間 () 分
3) 1か月間の当直回数 ^{注7}	() 回 うち、連続当直回数 () 回

注7. 調査票を受け取った医療機関と他の医療機関で連続して当直した場合もその回数をご記入ください。

④ 1年前と比較してあなたの勤務状況はどのように変化しましたか。この調査票を受け取った医療機関での勤務状況についてご回答ください。 ※○はそれぞれ1つだけ

1) 勤務時間	01. 短くなった	02. 変わらない	03. 長くなった			
2) 病棟の勤務状況	01. 改善した	02. 変わらない	03. 悪化した	04. 担当していない		
3) 外来の勤務状況 (標榜診療時間内)	01. 改善した	02. 変わらない	03. 悪化した	04. 担当していない		
4) 救急外来の勤務状況 (標榜診療時間外)	01. 改善した	02. 変わらない	03. 悪化した	04. 担当していない		
5) 標榜診療時間外における手術回数	01. 減った	02. 変わらない	03. 増えた	04. 担当していない		
6) 手術前日の当直回数	01. 減った	02. 変わらない	03. 増えた	04. 担当していない		
7) 当直の回数	01. 減った	02. 変わらない	03. 増えた	04. 担当していない		
8) 当直時の平均睡眠時間	01. 増えた	02. 変わらない	03. 減った	04. 担当していない		
9) オンコール担当回数 ^{注8}	01. 減った	02. 変わらない	03. 増えた	04. 担当していない		
10) 当直翌日の勤務状況	01. 改善した	02. 変わらない	03. 悪化した	04. 担当していない		
11) 書類作成等の事務作業	01. 減った	02. 変わらない	03. 増えた			
12) 総合的にみた勤務状況	01. 改善した	02. どちらかという改善した	03. 変わらない	04. どちらかという悪化した	05. 悪化した	06. その他 (具体的に)

注8. 病院、診療科、診療科内のチーム等の組織において「オンコール担当」として当番となった回数

3. あなたの行っている業務とその負担感等についてお伺いします。

① 貴診療科 (あなたの所属する診療科) における医師の負担軽減策についてお伺いします。

(1) 貴診療科で医師の負担軽減策として実施されている取組としてあてはまる番号全てに○をつけてください。

(2) 上記(1)で○をつけた取組について、特に医師の負担軽減効果のある取組としてあてはまる番号に3つまで○をつけてください。

	(1) 取組に○ (あてはまる全てに○)	→	(2) 特に医師の負担軽減 効果のあるものに○ (○は3つまで)
(記入例) 4) 予定手術前の当直の免除	④	→	④
1) 医師の増員	1	→	1
2) 勤務間インターバルの導入	2	→	2
3) 外来提供体制の短縮	3	→	3
4) 予定手術前の当直の免除	4	→	4
5) 当直翌日の業務内容の軽減 (当直翌日の休日を含む)	5	→	5
6) 複数主治医制 ^{注9} の実施	6	→	6

注9. 1人の患者につき複数の主治医が担当する場合。勤務時間外に対応が必要となった場合、基本的に当番の医師が対応する体制を取っている場合も含む。

① (続き)	(1) 実施されている 取組に○ (あてはまる全てに○)		(2) 特に医師の負担軽減 効果のあるものに○ (○はすべて)
	7) 医師業務の特定行為研修修了者との分担	7	→
8) 医師業務の看護師 (7) に示す看護師を除く) との分担	8	→	8
9) 医師業務の助産師との分担	9	→	9
10) 薬剤師による処方提案等	10	→	10
11) 薬剤師による投薬に係る入院患者への説明	11	→	11
12) 医師業務の薬剤師との分担	12	→	12
13) 医師事務作業補助者の病棟への配置・増員	13	→	13
14) 医師事務作業補助者の外来への配置・増員	14	→	14
15) 医師が出席する会議の開催方法の見直し	15	→	15
16) ICT を活用した業務の見直し・省力化	16	→	16

② 貴診療科における、あなたの業務負担感と業務分担の状況等についてお伺いします。

- (1) 各業務の業務負担感について、あてはまる番号をご記入ください。
 (2) 各業務の他職種との業務分担の取組状況についてあてはまる番号に○をつけてください。
 (3) 医師のみが実施している各業務 (上記 (2) で「3」に○がついた場合) について、今後、他職種への分担をどのように考えていますか。あてはまる番号に○をつけてください。

※ (1)、(2)、(3) のいずれについても、それぞれ○は1つずつ

	(1)業務負担感 【選択肢】該当番号記入 1: 負担が非常に小さい 2: 負担が小さい 3: どちらともいえない 4: 負担が大きい 5: 負担が非常に大きい 9: 実施していない	(2)分担取組状況			→ 3と回答した業務	(3)他職種への期待			
		主に他職種が 実施している	他職種の補助を 受けている	医師のみが 実施している		ほしい 他職種に実施して	ほしい 他職種に補助して	現行のままでよい	何とも言えない
(記入例) 3) 静脈注射	4	1	2	③	→	1	2	③	4
1) 初療時の予診		1	2	3	→	1	2	3	4
2) 静脈採血		1	2	3	→	1	2	3	4
3) 静脈注射		1	2	3	→	1	2	3	4
4) 血液培養		1	2	3	→	1	2	3	4
5) 留置針によるルート確保		1	2	3	→	1	2	3	4
6) 尿道カテーテルの留置		1	2	3	→	1	2	3	4
7) 気管カニューレの交換		1	2	3	→	1	2	3	4
8) 腹腔ドレーンの抜去・縫合		1	2	3	→	1	2	3	4
9) 抜糸		1	2	3	→	1	2	3	4
10) 人工呼吸器等の設定条件の変更		1	2	3	→	1	2	3	4
11) 人工呼吸器管理下の患者に対する鎮静薬の投与量の調整		1	2	3	→	1	2	3	4
12) 脱水症状に対する輸液による補正		1	2	3	→	1	2	3	4
13) 患者移動		1	2	3	→	1	2	3	4

② (続き)

	(1)業務負担感	(2)分担取組状況			→ 3と回答した業務	(3)他職種への期待				
		主に他職種が実施している	他職種の補助を受けている	医師のみが実施している		他職種に実施してほしい	他職種に補助してほしい	現行のままでよい	何とも言えない	
	【選択肢】 該当番号記入 1: 負担が非常に小さい 2: 負担が小さい 3: どちらともいえない 4: 負担が大きい 5: 負担が非常に大きい 9: 実施していない									
14) 診断書、診療記録及び処方せんの記載		1	2	3	→	1	2	3	4	
15) 主治医意見書の記載		1	2	3	→	1	2	3	4	
16) 診察や検査等の予約・データ入力や電子カルテ入力		1	2	3	→	1	2	3	4	
17) 救急医療等における診療の優先順位の決定 (トリアージの実施)		1	2	3	→	1	2	3	4	
18) 検査、治療、入院に関する患者への説明		1	2	3	→	1	2	3	4	
19) 検査、治療、入院に関する患者の家族への説明		1	2	3	→	1	2	3	4	
20) 慢性疾患患者への療養生活等の説明		1	2	3	→	1	2	3	4	
21) 診察前の事前の面談による情報収集や補足的な説明		1	2	3	→	1	2	3	4	
22) 患者の退院に係る調整業務		1	2	3	→	1	2	3	4	
23) 患者に対する処方薬の説明		1	2	3	→	1	2	3	4	
24) 医薬品の副作用・効果の確認		1	2	3	→	1	2	3	4	
25) 患者に対する検査結果の説明		1	2	3	→	1	2	3	4	

③ 上記②の業務の他に、あなたが負担に感じている業務で、医師以外の職員と役割分担ができる業務がありましたら、具体的にご記入ください。

4. 病棟薬剤師による、あなたの業務の負担軽減等についてお伺いします。

① あなたが主に勤務する病棟では、薬剤師が病棟に配置されていますか。 ※○は1つだけ

01. 配置されている (⇒ ①-1へ)

02. 配置されていない (⇒ 5へ)

①-1 配置されている場合の状況	(1)病棟における薬剤師の関与の状況			(2)医師の負担軽減及び医療の質の向上への効果 (薬剤師が関与している場合のみお答えください)				
	主に薬剤師が関与	時々薬剤師が関与	薬剤師は関与しない	効果がある	効果がある どちらかといえば	どちらともいえない	効果がない どちらかといえば	効果がない
1) 患者からの情報収集 (投薬歴、持参薬等)	1	2	3	1	2	3	4	5
2) 医師への処方や服薬計画等の提案	1	2	3	1	2	3	4	5
3) 患者に対する処方薬の説明	1	2	3	1	2	3	4	5
4) 医薬品の副作用・効果等の確認	1	2	3	1	2	3	4	5
5) 退院時の薬剤情報管理指導	1	2	3	1	2	3	4	5

5. あなたの勤務状況に関するご意見等をお伺いします。

① あなたの現在の勤務状況についてどのようにお考えですか。 ※〇は1つだけ

01. 改善の必要性が高い (⇒ ①-1へ)

02. 改善の必要性がある (⇒ ①-1へ)

03. 現状のままでよい (⇒ ②へ)

04. その他 (具体的に) (⇒ ②へ)

【上記①で「01. 改善の必要性が高い」「02. 改善の必要性がある」と回答した方のみお答えください】

①-1 勤務状況について「1. 改善の必要性が高い」または「2. 改善の必要性がある」と回答した最大の理由は何ですか。 ※〇は1つだけ

01. 医師の過重勤務により患者が不利益を被る可能性があるため

02. 業務を継続していけるか不安があるため

03. 過重勤務により身体的・精神的疾患を患う (患った) ため

04. 給与が業務量に比べて低いと感じるため

05. ワークライフバランスがとれていないため

06. 出産・育児休暇等の取得が難しいため

07. その他 (具体的に)

② どのような取組が病院で行われれば、医師の負担を軽減できると思いますか。具体的にご記入ください。

医師票の質問は以上です。ご協力いただきましてありがとうございました。

令和元年8月16日(金)までに返信用封筒(切手不要)に封入のうえ、ご投函ください。

平成 30年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（令和元年度調査）
医療従事者の負担軽減、働き方改革の推進に係る評価等に関する
実施状況調査

※特に指定がある場合を除いて、令和元年6月末現在の状況についてお答えください。

※数値を記入する設問で、該当するものがない場合は「0」（ゼロ）をご記入ください。

1. あなたが管理する病棟の概要についてお伺いします。

①病棟の主たる診療科をお選びください。※あてはまる番号すべてに○

- | | | | |
|-----------------------|-----------------------|------------|-------------|
| 01. 内科系 ^{注1} | 02. 外科系 ^{注2} | 03. 小児科 | 04. 産婦人科・産科 |
| 05. 救急部門 | 06. 精神科 | 07. その他（ ） | |

注1. 内科系：内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、腎臓内科、糖尿病内科、血液内科、感染症内科、アレルギー内科、リウマチ内科、心療内科、神経内科

注2. 外科系：外科、呼吸器外科、心臓血管外科、乳腺外科、気管食道外科、消化器外科、肛門外科、小児外科

②診療報酬上の病棟種別をお選びください。

※あなたが診療報酬上、複数の病棟種別の入院料を管理している場合、最も病床数の多い入院料を1つお選びください。

<入院基本料>

- | | | | | | | | | | | |
|------------------|--------------------------------|----------------|--|---------------------|----------------------------|----------------|----------------|---------------|---------------|---------------|
| 01. 一般病棟入院基本料→ | 01. 急性期一般入院料 1 | 02. 急性期一般入院料 2 | 03. 急性期一般入院料 3 | 04. 急性期一般入院料 4 | 05. 急性期一般入院料 5 | 06. 急性期一般入院料 6 | 07. 急性期一般入院料 7 | 08. 地域一般入院料 1 | 09. 地域一般入院料 2 | 10. 地域一般入院料 3 |
| 02. 療養病棟入院基本料→ | 01. 療養病棟入院料 1 | 02. 療養病棟入院料 2 | 03. 療養病棟入院基本料 注11※1 | 04. 療養病棟入院基本料 注12※2 | 夜間看護加算 (01. 届出あり 02. 届出なし) | | | | | |
| 03. 精神病棟入院基本料→ | 01. 1 0 対 1 | 02. 1 3 対 1 | 03. 1 5 対 1 | 04. 1 8 対 1 | 05. 2 0 対 1 | | | | | |
| 04. 特定機能病院入院基本料→ | 一般病棟 (01. 7 対 1 02. 1 0 対 1) | | 精神病棟 (01. 7 対 1 02. 1 0 対 1 03. 1 3 対 1 04. 1 5 対 1) | | | | | | | |
| 05. 障害者施設等入院基本料→ | 01. 7 対 1 | 02. 1 0 対 1 | 03. 1 3 対 1 | 04. 1 5 対 1 | 看護補助加算 (01. 届出あり 02. 届出なし) | | | | | |
| | 夜間看護体制加算 (01. 届出あり 02. 届出なし) | | | | | | | | | |
| 06. その他の入院基本料 → | 01. 7 対 1 | 02. 1 0 対 1 | 03. それ以外) | | | | | | | |

<特定入院料>

- | | | | | | | | | |
|------------------------|----------|------------|----------|------------|----------|------------|----------|------------|
| 07. 地域包括ケア病棟入院料→ | 01.入院料 1 | 02.入院管理料 1 | 03.入院料 2 | 04.入院管理料 2 | 05.入院料 3 | 06.入院管理料 3 | 07.入院料 4 | 08.入院管理料 4 |
| 08. 回復期リハビリテーション病棟入院料→ | 01.入院料 1 | 02.入院料 2 | 03.入院料 3 | 04.入院料 4 | 05.入院料 5 | 06.入院料 6 | | |
| 09. 小児入院医療管理料→ | 01.管理料 1 | 02.管理料 2 | 03.管理料 3 | 04.管理料 4 | 05.管理料 5 | | | |
| 10. その他の特定入院料（具体的に | | | | | | | | |

※1 看護職員配置が2 0 対 1 未満または医療区分2・3の患者割合5 0 %未満の場合

※2 看護職員配置が2 5 対 1 未満の場合

③ 貴病棟の病床数、病床利用率をご記入ください。	
1) 病床数	床
2) 病床利用率 ^{注3}	%

注3. 病床利用率：以下の式により算出し、小数点以下第1位まで（小数点以下第2位を切り捨て）ご記入ください。

$$\text{病床利用率} = \frac{\text{4月～6月の在院患者延べ数}}{(\text{月間日数} \times \text{月末許可病床数}) \text{の4月～6月の合計}} \times 100$$

2. 貴病棟における看護職員・看護補助者の勤務状況等についてお伺いします。

A. 職員数 ※以下の質問は令和元年6月末時点の実績をご記入ください。

① 貴病棟に配置されている職員数(夜勤専従者は除く)	常勤	非常勤(常勤換算 ^{注4})
1) 看護師数	人	人
1)のうち、特定行為研修を修了した看護師数	人	人
1)のうち、短時間勤務又は夜勤免除の看護師数	人	人
2) 准看護師数	人	人
3) 看護補助者数	人	人

注4. 常勤換算については以下の方法で算出してください。常勤換算後の職員数は、小数点以下第1位までお答えください。

- 1週間に数回勤務の場合：（非常勤職員の1週間の勤務時間）÷（貴施設が定めている常勤職員の1週間の勤務時間）
- 1か月に数回勤務の場合：（非常勤職員の1か月の勤務時間）÷（貴施設が定めている常勤職員の1週間の勤務時間×4）

①-1 特定行為研修を修了した看護師がいる場合、該当する特定行為区分をお選びください。 ※あてはまるもの全てに○	
01. 呼吸器（気道確保に係るもの）関連	02. 呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連
03. 呼吸器（長期呼吸療法に係るもの）関連	04. 循環器関連
05. 心嚢ドレーン管理関連	06. 胸腔ドレーン管理関連
07. 腹腔ドレーン管理関連	08. ろう孔管理関連
09. 栄養に係るカテーテル管理（中心静脈カテーテル管理）関連	10. 栄養に係るカテーテル管理（末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理）関連
11. 創傷管理関連	12. 創部ドレーン管理関連
13. 動脈血液ガス分析関連	14. 透析管理関連
15. 栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	16. 感染に係る薬剤投与関連
17. 血糖コントロールに係る薬剤投与関連	18. 術後疼痛管理関連
19. 循環動態に係る薬剤投与関連	20. 精神及び神経症状に係る薬剤投与関連
21. 皮膚損傷に係る薬剤投与関連	

B. 夜勤体制等

① 貴病棟の夜勤時間帯 ※24時間制でご記入ください	() 時～ () 時
-------------------------------	--------------

② 貴病棟の夜勤の体制についてお伺いします。

(1) 夜勤体制について、該当するものをお選びください。※あてはまる番号1つに○

(2) 夜勤時間帯の平均看護要員数(配置人数)をご記入ください。

	(1) 夜勤体制 ※あてはまる 番号1つに○	(2) 夜勤時間帯の平均看護要員数(配置人数)							
		看護職員 ^{注5}	看護補助者						
1) 2交代制 ^{注6} (変則2交代制 ^{注7} を含む)	1	→	() 人						
2) 3交代制 ^{注8} (変則3交代制 ^{注9} を含む)	2	→	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">準夜帯 () 人</td> <td style="width: 50%;">準夜帯 () 人</td> </tr> <tr> <td>深夜帯 () 人</td> <td>深夜帯 () 人</td> </tr> </table>	準夜帯 () 人	準夜帯 () 人	深夜帯 () 人	深夜帯 () 人		
準夜帯 () 人	準夜帯 () 人								
深夜帯 () 人	深夜帯 () 人								
3) 2交代制(変則2交代制を含む)と 3交代制(変則3交代制を含む) の混合	3	→	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">【2交代制】 () 人</td> <td style="width: 50%;">【2交代制】 () 人</td> </tr> <tr> <td>【3交代制】 準夜帯 () 人</td> <td>【3交代制】 準夜帯 () 人</td> </tr> <tr> <td>深夜帯 () 人</td> <td>深夜帯 () 人</td> </tr> </table>	【2交代制】 () 人	【2交代制】 () 人	【3交代制】 準夜帯 () 人	【3交代制】 準夜帯 () 人	深夜帯 () 人	深夜帯 () 人
【2交代制】 () 人	【2交代制】 () 人								
【3交代制】 準夜帯 () 人	【3交代制】 準夜帯 () 人								
深夜帯 () 人	深夜帯 () 人								
4) その他 (具体的に)	4	→	() 人						

注5. 看護職員：保健師、助産師、看護師、准看護師を指します。

注6. 2交代制：日勤・夜勤が12時間ずつ等といった日勤・夜勤の各時間帯の勤務時間の長さが同じになる交代勤務。

注7. 変則2交代制：日勤8時間、夜勤16時間といった日勤・夜勤の各時間帯の勤務時間の長さが異なる交代勤務。

注8. 3交代制：日勤・準夜勤・深夜勤が8時間ずつの交代勤務。

注9. 変則3交代制：日勤9時間、準夜勤7時間、深夜勤8時間といった日勤・準夜勤・深夜勤の各時間帯の勤務時間の長さが異なる交代勤務。

③ 平成30年度診療報酬改定の結果、貴病棟における看護職員数や夜勤に関する状況は改定前と比較して、どのようになりましたか。※それぞれ○は1つだけ

	01. 増えた	02. 変わらない	03. 減った
1) 看護師数			
2) 准看護師数			
3) 看護補助者数			
4) 実際の夜勤時間の長さ(残業等含む)			
5) 夜勤の回数			
6) 夜勤時の受け持ち患者数			
7) 夜勤時の繁忙度			
8) 夜勤の看護職員配置数			
9) 夜勤の看護補助者配置数			
10) 夜勤をする理学療法士等(看護要員以外)の配置数			
11) 一部の者への夜勤の負担			
12) 夜勤シフトの組み方			
13) 夜勤の72時間要件			
14) 他部署との兼務			
15) 短時間勤務者で夜勤時間帯に勤務する者			

④ 平成30年度診療報酬改定の結果、改定前と比較して、貴病棟の看護職員の勤務状況はどのように変化しましたか。※それぞれ○は1つだけ

	01. 長くなった	02. 変わらない	03. 短くなった
1) 勤務時間			
2) 残業時間			
3) 有給休暇の取得状況			
4) 総合的にみた勤務状況	01. 改善した	02. どちらかという改善した	
	03. 変わらない	04. どちらかという悪化した	
	05. 悪化した	06. その他 ()	

3. 貴病棟における看護職員の負担軽減策の取組状況についてお伺いします。

①貴病棟における看護職員の負担軽減策についてお伺いします。

(1) 貴病棟で看護職員の負担軽減策として実施している取組に○をつけてください。※あてはまる番号すべてに○

(2) 上記(1)で○をつけた取組について、取組を開始した時期としてあてはまる番号に○をつけてください。

※それぞれ○は1つずつ

(3) 上記(1)で○をつけた取組について、看護職員の負担軽減の効果としてあてはまる番号に○をつけてください。

※それぞれ○は1つずつ

	(1)		(2) 取組を開始した時期		(3) 負担軽減効果					
	実施されて いる取組に○		平成30年 3月31日 以前	平成30年 4月1日 以降	効果がある	どちらかといえ ば効果がある	ない	どちらともい え	どちらかとい え	効果が ない
(記入例)4)夜勤専従者の雇用	④	→	①	2	1	②	3	4	5	
1. 看護職員の配置・勤務シフト等										
1) 看護職員の増員	1	→	1	2	1	2	3	4	5	
2) 短時間勤務の看護職員の増員	2	→	1	2	1	2	3	4	5	
3) 夜勤時間帯の看護職員配置の増員	3	→	1	2	1	2	3	4	5	
4) 夜勤専従者の雇用	4	→	1	2	1	2	3	4	5	
5) 2交代・3交代制勤務の見直し (変則への移行を含む)	5	→	1	2	1	2	3	4	5	
6) 残業時間も考慮した11時間以上の 勤務間隔の確保	6	→	1	2	1	2	3	4	5	
7) 夜勤後の暦日の休日の確保	7	→	1	2	1	2	3	4	5	
8) 夜勤の連続回数が2連続(2回まで) の設定	8	→	1	2	1	2	3	4	5	
9) 月の夜勤回数の上限の設定	9	→	1	2	1	2	3	4	5	
10) (2交代制勤務の場合)夜勤時の仮 眠時間を含む休憩時間の確保	10	→	1	2	1	2	3	4	5	
11) (2交代制勤務の場合)16時間未満 となる夜勤時間の設定	11	→	1	2	1	2	3	4	5	
12) (3交代制勤務の場合)日勤深夜、 準夜日勤のシフトの回避	12	→	1	2	1	2	3	4	5	
13) (3交代制勤務の場合)正循環の交 代周期の確保	13	→	1	2	1	2	3	4	5	
14) 早出や遅出などの看護ニーズに応 じた勤務の導入・活用	14	→	1	2	1	2	3	4	5	
15) 当直明けの勤務者に対する配慮	15	→	1	2	1	2	3	4	5	
16) 残業が発生しないような業務量の 調整	16	→	1	2	1	2	3	4	5	
17) 日勤・夜勤の業務分担等の見直し	17	→	1	2	1	2	3	4	5	
18) 夜間を含めた各部署の業務量を把 握・調整するシステムの構築	18	→	1	2	1	2	3	4	5	
19) 他部門(退院支援部門等)の看護 職員との業務分担	19	→	1	2	1	2	3	4	5	
20) PHSやスマホ等を活用したナース コールシステムの導入	20	→	1	2	1	2	3	4	5	

	(1)		(2)取組を開始した時期		(3)負担軽減効果				
	実施されている取組に○		平成30年 3月31日 以前	平成30年 4月1日 以降	効果がある	効果がある どちらかといえば	ない どちらともいえない	効果がない どちらかといえば	効果がない
21) 見守りセンサー等のIoT機器の導入	21	→	1	2	1	2	3	4	5
22) 電子カルテの活用	22	→	1	2	1	2	3	4	5
23) オーダリングシステムの活用	23	→	1	2	1	2	3	4	5
24) 業務効率化のための手順等の見直し	24	→	1	2	1	2	3	4	5
25) 交代時の申し送りの簡素化	25	→	1	2	1	2	3	4	5
26) 看護記録に係る負担軽減の取組	26	→	1	2	1	2	3	4	5
27) 勤務時間内の委員会 ^{注10} の開催	27	→	1	2	1	2	3	4	5
28) 看護職員に出席義務のある院内の各種委員会の見直し(出席者、回数、開催時間、開催方法の見直し)	28	→	1	2	1	2	3	4	5
29) 院内保育所の設置 ^{注11}	29	→	1	2	1	2	3	4	5
30) 夜間院内保育所の設置 ^{注11}	30	→	1	2	1	2	3	4	5
31) メンタルヘルス対策の実施	31	→	1	2	1	2	3	4	5
2. 看護補助者の配置等									
32) 看護補助者との業務分担	32	→	1	2	1	2	3	4	5
33) 看護補助者の増員	33	→	1	2	1	2	3	4	5
34) 早出や遅出の看護補助者の配置	34	→	1	2	1	2	3	4	5
35) 夜勤時間帯の看護補助者の配置	35	→	1	2	1	2	3	4	5
36) 病棟クランクとの業務分担	36	→	1	2	1	2	3	4	5
37) 病棟クランクの配置	37	→	1	2	1	2	3	4	5
3. 他職種との業務分担等									
38) 理学療法士、作業療法士、言語聴覚士との業務分担	38	→	1	2	1	2	3	4	5
39) 理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の病棟配置	39	→	1	2	1	2	3	4	5
40) 臨床検査技師、臨床工学技士との業務分担	40	→	1	2	1	2	3	4	5
41) 臨床検査技師、臨床工学技士の病棟配置	41	→	1	2	1	2	3	4	5
42) MSW又はPSWとの業務分担	42	→	1	2	1	2	3	4	5
43) MSW又はPSWの病棟配置	43	→	1	2	1	2	3	4	5
44) 薬剤師との業務分担	44	→	1	2	1	2	3	4	5
45) 薬剤師の病棟配置	45	→	1	2	1	2	3	4	5

注10. 入院基本料の施設基準の「院内感染防止対策に関する基準」「医療安全管理体制に関する基準」「褥瘡対策の基準」を満たすための委員会は除きます。

注11. 病院として院内保育所または夜間院内保育所を設置している場合、それぞれ「(1)実施されている取組」欄に○をご記入いただき、(2)、(3)にご回答ください。

【上記①の「26)看護記録に係る負担軽減の取組」を実施していると回答した場合】

①-1 看護記録に係る負担軽減のため、どのような取組を実施していますか。※あてはまるもの全てに○

- 01. 記録内容の簡素化・見直し（様式の見直し、重複書類の削減、クリニカルパスの活用等）
- 02. 記録の運用方法の見直し（記録の電子化、多職種間での共同閲覧機能の拡大等）
- 03. 「一般病棟用の重症度、医療・看護必要度」の評価方法の変更（ⅠからⅡへ）
- 04. ベッドサイドで記録できるシステム・仕組みの導入（タブレットやモバイルPCの活用等）
- 05. バイタルデータ等の自動入力システムの活用
- 06. 看護補助者やクラーク等による入力代行・支援
- 07. 音声入力やボイスレコーダーを活用した看護記録の代行入力
- 08. AI^{注12}を活用したアセスメント支援システムの導入
- 09. その他（具体的内容： _____ ）

①-2 上記①-1で選択した取組のうち、最も負担軽減に寄与している取組の番号1つをご記入ください。

①-3 上記①-1での選択の有無とは関わりなく、最も負担軽減に寄与と思われる取組の番号1つをご記入ください。

注12. AI：artificial intelligenceの略称。人工知能。

②上記①以外の取組で看護職員の負担軽減に効果のある取組があればご記入ください。

4. あなたの勤務する病棟での多職種との連携状況等についてお伺いします。

①あなたが勤務する病棟に看護補助者が配置されていますか。※○は1つだけ

01. 配置されている →①-1～①-4へ

02. 配置されていない →p.8 ②へ

①-1 以下の各業務について、貴病棟の状況をそれぞれご回答ください。

	(1)業務負担感	(2)看護補助者との業務分担状況 (※それぞれ最も近いもの1つに○)			(3)【看護補助者が各業務を実施する場合(完全委譲・部分委譲・協働も含む)】 看護職員の負担軽減の効果 (※それぞれ最も近いもの1つに○) ※既に看護補助者が実施している場合もお答えください。					(4)【看護職員が主に担当している場合】 今後の協働・分担に関する意向・予定		
		看護職員が主に担当	看護職員と看護補助者との協働	看護補助者が主に担当	効果がある	効果がある	どちらかといえば	効果がない	どちらかといえば	効果がない	協働・分担を進めたいと考 えており、検討中	協働・分担を進めたいが具 体的な検討はしていない
1) 食事介助	【選択肢】 1：負担が非常に小さい 2：負担が小さい 3：どちらともいえない 4：負担が大きい 5：負担が非常に大きい 9：実施していない <small>該当番号を記入</small>	1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3
2) 配下膳		1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3
3) 排泄介助		1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3

※次ページに続きます。

(①-1続き)

	(1)業務負担感	(2)看護補助者との業務分担状況 (※それぞれ最も近いもの1つに○)			(3)【看護補助者が各業務を実施する場合(完全委譲・部分委譲・協働も含む)】 看護職員の負担軽減の効果 (※それぞれ最も近いもの1つに○) ※既に看護補助者が実施している場合もお答えください。					(4)【看護職員が主に担当している場合】 今後の協働・分担に関する意向・予定		
	【選択肢】 1:負担が非常に小さい 2:負担が小さい 3:どちらともいえない 4:負担が大きい 5:負担が非常に大きい 9:実施していない 該当番号を記入	看護職員が主に担当 看護職員と看護補助者との協働 看護補助者が主に担当	効果がある	効果がある	どちらかといえば	どちらかといえば	効果がない	効果がない	効果がない	協働・分担を進めたいと考 えており、検討中 体的な検討はしていない 協働・分担を進めたいが具 体的な検討はしていない 協働・分担の意向はない		
4)おむつ交換等		1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3
5)体位変換		1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3
6)移乗(車椅子、ベッド等)		1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3
7)寝具やリネンの交換、ベッド作成		1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3
8)清潔・整容(清拭、陰部洗浄、口腔の清拭等、入浴介助等)		1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3
9)患者の病棟外への送迎(検査、リハビリ等)		1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3
10)入院案内(オリエンテーション等)		1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3
11)日中の患者のADLや行動の見守り・付添(認知症や高次機能障害等)		1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3
12)夜間の患者のADLや行動の見守り・付添(認知症や高次機能障害等)		1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3
13)事務的業務 ^{注13}		1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3
14)物品搬送		1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3
15)医療材料等の物品の補充、準備、点検		1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3
16)環境整備		1	2	3	1	2	3	4	5	1	2	3

注13. 事務的業務：カルテ整理、書類の取扱い、検査処置伝票の取扱い、レントゲンフィルムの整理、案内電話対応、コンピュータ入力等。

①-2 看護補助者に業務を委譲(完全・部分)したことで、看護職員はどのような業務の時間を増やすことができましたか。 ※あてはまるもの全てに○

01. 入院患者に対する観察頻度の増加	02. 医療処置(医師の介助を含む)の実施の増加
03. 早期離床に関する支援の充実	04. 生活リハビリテーションの充実
05. その他ベッドサイドでのケアの充実	06. 患者、家族とのコミュニケーションの充実
07. 多職種カンファレンスの実施	08. 多職種との協働(計画作成・介入・評価)の充実
09. 退院に向けた支援の充実	10. 地域連携に関する取組の充実
11. 看護計画作成・評価の充実	12. 看護要員間での対面による情報共有の充実
13. 看護記録の新たな作成	
→内訳:	1.患者の基礎情報に関する記録 2.看護計画 3.経過記録(日々の記録) 4.看護必要度に関する記録 5.サマリーの作成 6.その他()
14. その他(具体的に:)	

①-3 上記で選択した項目のうち、最も時間を増やすことができた項目の番号1つをご記入ください。

①-4 看護職員と看護補助者との業務分担に当たり、どのような課題がありますか。

※あてはまる番号全てに○

01. 業務分担をしたいが、看護補助者を確保できない・定着しない
02. 業務分担を更に推進したいが、現行以上の十分な看護補助者が確保できない・定着しない
03. 食事介助、排泄介助、おむつ交換などの直接的ケアを実施できる看護補助者がいない
04. 看護補助者を対象とした研修内容が十分でない
05. 看護補助者の教育や研修等、人材育成の仕組みが不十分である
06. その他（具体的に _____ ）

①-5 上記で選択した項目のうち、最も課題であると考える項目の番号1つをご記入ください。

【すべての方にお伺いします】

② 貴病棟には、薬剤師が病棟配置されていますか。 ※○は1つだけ

01. 配置されている → 配置されている薬剤師数（常勤換算^{注14}）（ _____ ）人 → ②-1へ
02. 配置されていない → ③へ

注14. 常勤換算については以下の方法で算出してください。常勤換算後の職員数は、小数点以下第1位までお答えください。

- 1週間に数回勤務の場合：（非常勤職員の1週間の勤務時間）÷（貴施設が定めている常勤職員の1週間の勤務時間）
- 1か月に数回勤務の場合：（非常勤職員の1か月の勤務時間）÷（貴施設が定めている常勤職員の1週間の勤務時間×4）

②-1 病棟薬剤師の配置による効果としてあてはまる番号に○をつけてください。 ※あてはまる番号すべてに○

01. 看護職員の薬剤関連業務の負担が軽減した
02. 速やかに必要な情報を把握できるようになった
03. 薬剤関連のインシデントが減少した
04. 服薬支援がより適切に行われるようになった
05. 病棟職員の薬物療法・服薬指導に対する理解・スキルが向上した
06. 患者に対する直接ケアの時間が増えた
07. 効果が実感できない
08. その他（具体的に _____ ）

③ 薬剤師が病棟に配置されているか否かに関わらず、すべての方にお伺いします。

- (1) 以下の各業務について、薬剤師との連携状況としてあてはまる番号に○をつけてください。 ※それぞれ○は1つ
- (2) 薬剤師が実施している、または薬剤師と連携して実施している場合、負担軽減の効果についてもお答えください。 ※それぞれ○は1つ

	(1) 連携状況			(2) 【薬剤師が実施している、または 薬剤師と連携して実施している場合】 負担軽減効果				
	薬剤師が実施している、または薬剤師と連携して実施している	薬剤師と連携している予定である（進めたいと考えている）	薬剤師と連携していないが、今後連携を進める予定である	薬剤師と連携しておらず、今後も連携する予定はない	効果がある	どちらかといえば効果がある	どちらともいえない	どちらかといえば効果がない
1) 持参薬の管理	1	2	3	1	2	3	4	5
2) 効果・副作用等の確認	1	2	3	1	2	3	4	5
3) 薬剤師と共にカンファレンスや回診への参加	1	2	3	1	2	3	4	5
4) 患者等への薬剤に関する説明等の実施	1	2	3	1	2	3	4	5
5) 配薬	1	2	3	1	2	3	4	5
6) 日々の服薬状況の確認	1	2	3	1	2	3	4	5

※次ページに続きます。

(3) 続き

	(1) 連携状況			(2) 【薬剤師が実施している、または 薬剤師と連携して実施している場合】 負担軽減効果				
	薬剤師が実施している、または薬剤師と連携して実施している	薬剤師と連携していないが、今後連携を進める予定である（進めたいと考えている）	薬剤師と連携する予定はない	効果がある	どちらかといえば効果がある	どちらともいえない	どちらかといえば効果がない	効果がない
7) 薬剤のミキシング（抗がん剤を除く）	1	2	3	1	2	3	4	5
8) 抗がん剤のミキシング	1	2	3	1	2	3	4	5
9) 病棟配置薬の管理	1	2	3	1	2	3	4	5
10) 薬物療法（注射や輸液等の保管管理、準備、薬剤の投与量の調整等）	1	2	3	1	2	3	4	5
11) 退院患者の薬剤指導	1	2	3	1	2	3	4	5
12) その他 (具体的に)	1	2	3	1	2	3	4	5

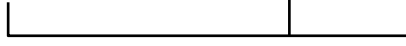


④ 貴病棟における医師との連携状況等についてお伺いします。

(1) 以下の各業務について、医師との連携状況としてあてはまる番号に○をつけてください。「医師と看護職員が協働で実施」を選んだ場合は、看護職員が実施する割合についてもお答えください。 ※それぞれ○は1つ

(2) 医師と看護職員が協働で実施している、または看護職員が主に実施している場合、看護職員の業務負担感についてもお答えください。 ※それぞれ○は1つ

	(1) 連携状況							(2) 【医師と看護職員が協働で実施している、 または看護職員が主に実施している場合】 業務負担感				
	医師が主に実施	医師と看護職員が協働で実施	看護職員が実施する割合			看護職員が主に実施	他職種（医師、看護職員以外）が実施	負担が非常に小さい	負担が小さい	どちらともいえない	負担が大きい	負担が非常に大きい
			4割未満	7割未満	4割以上							
1) 初療時の予診	1	2	(a)	(b)	(c)	3	4	1	2	3	4	5
2) 静脈採血	1	2	(a)	(b)	(c)	3	4	1	2	3	4	5
3) 静脈注射	1	2	(a)	(b)	(c)	3	4	1	2	3	4	5
4) 血液培養	1	2	(a)	(b)	(c)	3	4	1	2	3	4	5
5) 留置針によるルート確保	1	2	(a)	(b)	(c)	3	4	1	2	3	4	5
6) 尿道カテーテルの留置	1	2	(a)	(b)	(c)	3	4	1	2	3	4	5
7) 気管カニューレの交換	1	2	(a)	(b)	(c)	3	4	1	2	3	4	5
8) 腹腔ドレーンの抜去・縫合	1	2	(a)	(b)	(c)	3	4	1	2	3	4	5
9) 抜糸	1	2	(a)	(b)	(c)	3	4	1	2	3	4	5
10) 人工呼吸器等の設定条件の変更	1	2	(a)	(b)	(c)	3	4	1	2	3	4	5
11) 人工呼吸器管理下の患者に対する鎮静薬の投与量の調整	1	2	(a)	(b)	(c)	3	4	1	2	3	4	5



①-2 上記①で「03.どちらかといえば不十分である」又は「04.不十分である」と回答した理由は何ですか。

※あてはまる番号すべてに○

01. 看護職員の勤務状況が改善していないため、又は悪化したため
02. 予算が不足しており取組が十分に実施できていないため
03. 人員が不足しており取組が十分に実施できていないため
04. 経営層の理解が得られず取組が十分に実施できていないため
05. どのような取組を実施すればよいか分からないため
06. その他（具体的に

)

①-2-1 上記で選択した項目のうち、理由として最も当てはまる項目の番号1つをご記入ください。

②貴病棟における、看護職員の業務負担の要因として、どのようなものがありますか。

主なものを3つまでお選びください。※○は3つまで

01. 看護職員不足
02. 夜勤可能な看護職員不足
03. 看護記録等の書類
→負担となっている記録の内訳（あてはまる番号すべてに○）：
〔 1. 看護記録 2. 看護必要度に関する記録 3. その他診療報酬に関連した書類
4. その他院内規定の書類 5. その他() 〕
04. 診療時間外の患者（家族）への説明対応
05. 緊急入院や夜勤時間帯における入院の増加
06. 転倒・転落予防等、医療安全対策として頻回な見守りを要する入院患者数の増加
07. 管理部門等による不十分なマネジメント体制（例：日々の患者の重症度等に応じた看護職員配置の調整の不足など）
08. 出席要請のある病院としての委員会
09. 出席要請のある病棟のカンファレンス
10. 交代時の申し送り
11. 看護補助者や病棟クラークの不足
12. 医師以外の他の職種の不足(11を除く)
13. 医師不在等による指示待ち時間
14. 医師からのタスク・シフティング
15. その他(具体的に
16. わからない
17. 特になし

)

③今後、どのような取組をすれば、看護職員の業務負担の軽減が図られると思いますか。※あてはまる番号すべてに○

01. 薬剤師による薬剤の準備、処方依頼、残薬確認
02. リハビリ職による病棟内で行う日常生活動作向上のための介助
03. 臨床検査技師による採血・検体採取介助
04. 技師職による検査前後の説明や検査結果の管理
05. 臨床工学技士による医療機器の管理・請求・補充
06. 歯科専門職による口腔管理
07. 看護補助者との役割分担のさらなる推進
08. 特定行為研修を修了した看護師の活用（例：医師不在等による指示待ち時間の減少など）
09. システムや事務職員等による物品の搬送・移送
10. 電子カルテシステムの導入や改良
11. その他（具体的に

)

③-1 上記で選択した取組のうち、看護職員の業務負担軽減に最も効果があると考えられる取組の番号1つをご記入ください。

④貴病棟における看護職員の勤務状況や負担軽減に関する今後の課題等があればご記入ください。

看護師長票の質問は以上です。ご協力いただきましてありがとうございました。

令和元年8月16日（金）までに返信用封筒（切手不要）に封入のうえ、ご投函ください。

平成30年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（令和元年度調査）
医療従事者の負担軽減、働き方改革の推進に係る評価等に関する実施状況調査

- 特に指定がある場合を除いて、令和元年6月末現在の状況についてお答えください。
●ご回答の際は、該当する番号を○（マル）で囲んでください。また、（ ）内には具体的な数値等をご記入ください。
（ ）内に数値を記入する設問で、該当なしは「0（ゼロ）」を、わからない場合は「-」をご記入ください。

1. 貴施設の概要等についてお伺いします。

① 貴施設の薬剤師数（薬剤部以外に所属する薬剤師も含めた全体の人数）を常勤、非常勤別にご記入ください。

	常 勤	非常勤	
		実人数	常勤換算人数 ^{注1}
薬剤師	() 人	() 人	() 人

注1. 常勤換算については以下の方法で算出してください。常勤換算後の職員数は、小数点以下第1位までお答えください。

- 1週間に数回勤務の場合：（非常勤職員の1週間の勤務時間）÷（貴施設が定めている常勤職員の1週間の勤務時間）
■ 1か月に数回勤務の場合：（非常勤職員の1か月の勤務時間）÷（貴施設が定めている常勤職員の1週間の勤務時間×4）

② 貴施設薬剤部門に所属する薬剤師数及びその他の職員を常勤、非常勤別にご記入ください。

	常 勤	非常勤	
		実人数	常勤換算人数
1) 薬剤師	() 人	() 人	() 人
2) その他の職員	① 事務補助者	() 人	() 人
	② その他	() 人	() 人

③ 貴施設における、平成30年6月及び令和元年6月1か月間における常勤薬剤師1人あたりの平均勤務時間、平均当直回数、平均オンコール担当回数等についてご記入ください。

	平成30年6月	令和元年6月
1) 1人あたりの平均勤務時間 ^{注2}	約()時間()分	約()時間()分
2) 夜間勤務体制 ※○は1つだけ	01. 日勤のみ 02. 当直 ^{注3} 03. オンコール ^{注4} 04. 2交代制 ^{注5} 05. 3交代制 ^{注6} 06. シフト勤務 ^{注7} （早出、遅出等） 07. その他（具体的に)	

注2. 所定労働時間に残業時間を加えた時間

注3. 薬剤師が夜間勤務している体制をとっていること

注4. 自宅待機等で必要時に呼び出しを受けて対応できる体制をとっていること

注5. 日勤・夜勤が12時間ずつ等といった日勤・夜勤の各時間帯の勤務時間の長さが同じになる交代勤務

注6. 日勤・準夜勤・深夜勤が8時間ずつの交代勤務

注7. 早出、遅出等の時間差勤務体制をとっていること

【以下の設問3)～7)は、2)で「02.当直」あるいは「03.オンコール」に回答した施設のみお答えください。】

	常 勤	非常勤
3) 当直、オンコールを担当する薬剤師数	() 人	() 人
	平成30年6月	令和元年6月
4) 1人あたりの当直・オンコール担当平均回数 ^{注8}	() 回	() 回
5) 上記4)のうち、土曜・日曜の平均回数	() 回	() 回

6) 当直・オンコール時の業務内容について ※あてはまる番号すべてに○

01. 入院患者に対する内用薬・外用薬調剤
02. 入院患者に対する注射薬調剤
03. 外来患者に対する内用薬・外用薬調剤・交付業務
04. 外来患者に対する注射薬調剤
05. 入院患者に対する無菌製剤処理業務
06. 外来患者に対する無菌製剤処理業務
07. 薬品管理業務（発注、在庫管理、マスタ管理等）
08. 病棟薬剤業務
09. その他（具体的に)

注8. 土曜日・日曜日の日直はそれぞれ1回として数える

	平成 30 年 6 月	令和元年 6 月
7) 当直・オンコール 1 回当たり処方箋平均枚数	() 枚/回	() 枚/回
8) 上記 7) のうち、土曜・日曜の平均枚数	() 枚/回	() 枚/回

④ 貴施設における、平成 30 年 6 月及び令和元年 6 月 1 か月間における処方箋枚数についてご記入ください。

	平成 30 年 6 月	令和元年 6 月
1) 外来患者の院外処方箋	() 枚	() 枚
2) 外来患者の院内処方箋	() 枚	() 枚
3) 入院患者の処方箋	() 枚	() 枚

⑤ 貴施設における 1) 病棟数、2) 薬剤師が配置されている病棟数についてご記入ください。
※病棟薬剤業務実施加算を算定していない場合もすべて含めて記入してください。

	平成 30 年 6 月	令和元年 6 月
1) 貴施設における全病棟数	() 病棟	() 病棟
2) 上記 1) のうち、病棟専任の薬剤師が配置されている病棟数	() 病棟	() 病棟
3) 療養病棟・精神病棟の病棟数	() 病棟	() 病棟
4) 上記 3) のうち、病棟専任の薬剤師が配置されている病棟数	() 病棟	() 病棟
5) 集中治療室等 ^{注9} の病棟数	() 病棟	() 病棟
6) 上記 5) のうち、病棟専任の薬剤師が配置されている病棟数	() 病棟	() 病棟

注9. 救命救急入院料、特定集中治療室管理料、脳卒中ケアユニット入院医療管理料、小児特定集中治療室管理料、新生児特定集中治療室管理料、又は総合周産期特定集中治療室管理料のいずれかを算定している病棟

⑥ 各病棟に配置されている薬剤師数を常勤、非常勤別にご記入ください。

	平成 30 年 6 月			令和元年 6 月		
	常勤	非常勤		常勤	非常勤	
		実人数	常勤換算人数		実人数	常勤換算人数
1) 各病棟に配置されている薬剤師数	() 人	() 人	() 人	() 人	() 人	() 人
2) 上記 1) のうち、病棟専任の薬剤師数	() 人	() 人	() 人	() 人	() 人	() 人
3) 上記 2) のうち、療養病棟・精神病棟に配置されている薬剤師数	() 人	() 人	() 人	() 人	() 人	() 人
4) 上記 2) のうち、集中治療室等 ^{注9} に配置されている薬剤師数	() 人	() 人	() 人	() 人	() 人	() 人

2. 薬剤師の病棟業務等についてお伺いします。

① 貴施設では、病棟薬剤業務実施加算の施設基準の届出をしていますか。 ※あてはまる番号すべてに○

01. 病棟薬剤業務実施加算 1 (⇒③へ)
 02. 病棟薬剤業務実施加算 2 (⇒③へ)
 03. いずれも届出していない (⇒②-1 へ)

【②-1～②-2 は、上記①で「03.いずれも届出していない」と回答した施設の方のみご回答ください。】

②-1 薬剤師の業務について、1年前と比較してどのように変わりましたか。 ※○はそれぞれ1つつ

	とても増えた	増えた	変化はない	減った	とても減った
1) 薬剤師による入院時における持参薬の確認	1	2	3	4	5
2) 薬剤師から医師への情報提供	1	2	3	4	5
3) 薬剤師の病棟内のカンファレンス・回診への参加回数	1	2	3	4	5
4) 医師から薬剤師への相談回数	1	2	3	4	5
5) 看護職員から薬剤師への相談回数	1	2	3	4	5
6) 薬剤師による処方提案の件数	1	2	3	4	5
7) 薬剤師による臨床検査（肝・腎機能、電解質・血中薬物濃度モニタリングなど）の提案の件数	1	2	3	4	5
8) 薬剤師の関与による副作用・相互作用等回避の件数	1	2	3	4	5
9) 薬剤師の関与による副作用報告の件数	1	2	3	4	5
10) 薬剤総合評価調整加算の件数（算定できない病棟の場合は同様の業務の実施回数）	1	2	3	4	5
11) 退院時薬剤情報管理指導料の件数	1	2	3	4	5
12) 医薬品情報室での情報収集・管理	1	2	3	4	5

②-2 病棟薬剤業務実施加算の施設基準の届出をしていないのはなぜですか。 ※あてはまる番号すべてに○

01. 算定対象病棟がないため
 02. 薬剤師の人数が不足しているため
 03. 病棟以外（調剤・製剤、外来化学療法、手術室など）の業務負担が大きい
 04. 病棟専任薬剤師による病棟業務の実施時間が週 20 時間に満たないため
 05. 薬剤管理指導以外の病棟薬剤業務のニーズが少ないため
 06. その他（具体的に)

【③は、本頁の①で「1.病棟薬剤業務実施加算 1」又は「2.病棟薬剤業務実施加算 2」と回答した施設の方で、平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月の期間に届出した施設がご回答ください。】

③ 届出を行うためにどのような対応を行いましたか。 ※あてはまる番号すべてに○

01. 特に何もしていない
 02. 常勤薬剤師を増員した
 03. 非常勤薬剤師を増員した
 04. 薬剤部門の事務補助者を増員した
 05. 薬剤部門の人員配置・勤務体制の見直しを行った
 06. 医師との業務分担を見直した
 07. 看護職員との業務分担を見直した
 08. IT やシステム等（業務日誌や入力テンプレート等）の活用や環境整備を行った
 09. その他（具体的に)

【④は、全ての施設がご回答ください。】

④ 病棟薬剤業務の実施はどのような点で重要だと思いますか。具体的にご記入ください。

【⑤-1～⑤-5 は、入院時支援加算の施設基準の届出をしている施設のみご回答ください。】

⑤-1 貴施設では令和元年6月中に入院時支援加算を算定しましたか。 ※〇は1つだけ

01. 算定した (⇒⑤-2 へ) 02. 算定しなかった (⇒⑥-1 へ)

【上記⑤-1で「01. 算定した」と回答した施設のみお答えください。】

⑤-2 入院時支援加算の算定にあたり、薬剤師の関与はありましたか。 ※〇は1つだけ

01. あった (⇒⑤-3～⑤-4 へ) 02. なかった (⇒⑥-1 へ)

【上記⑤-2で「01. あった」と回答した施設のみお答えください。】

⑤-3 薬剤師の関与の内容としてあてはまるものをお選びください。 ※あてはまる番号すべてに〇

01. 服薬中の薬剤の確認 02. 入院中に行われる治療・検査の説明
03. その他 (具体的に)

【上記⑤-2で「01. あった」と回答した施設のみお答えください。】

⑤-4 入院時支援加算の算定に関与した薬剤師としてあてはまるものをお選びください。
※あてはまる番号すべてに〇

01. 病棟薬剤業務を担当する薬剤師 (⇒⑥-1 へ) 02. 01 以外の薬剤師 (⇒⑤-5 へ)

【上記⑤-4で「02. 01 以外の薬剤師」と回答した施設のみお答えください。】

⑤-5 入院時支援加算の算定に病棟薬剤業務を担当する薬剤師以外の薬剤師が関与することにより、病棟薬剤業務に変化がありましたか。 ※あてはまる番号すべてに〇

01. 持参薬確認業務が減った
02. 医師へ情報提供をする機会が増えた
03. 医師へ処方提案をする機会が増えた
04. 病棟でのカンファレンスに参加する機会が増えた
05. 病棟での回診に同行する機会が増えた
06. 特に変化なし
07. その他 (具体的に)

【⑥-1～⑥-3は、病棟薬剤業務実施加算を別途算定することができない患者のみが入院している病棟で病棟薬剤業務を実施している施設がご回答ください。】

⑥-1 病棟薬剤業務実施加算を別途算定することができない患者のみが入院している病棟で算定している入院料（入院基本料、特定入院料等）のうち最も多いものを1つ具体的にご記入ください。

（例：小児入院医療管理料、回復期リハビリテーション病棟入院料、地域包括ケア病棟入院料 等）

⑥-2 病棟薬剤業務を実施することでどのような効果がありましたか。 ※あてはまる番号すべてに○

- | | |
|-----------------------------|----------------------|
| 01. 患者の薬に関する知識とアドヒアランスが向上した | 02. 医師の業務負担が軽減した |
| 03. 看護職員の業務負担が軽減した | 04. 薬剤関連のインシデントが減少した |
| 05. 薬物治療の質が向上した | 06. 患者のQOLが向上した |
| 07. 薬剤種類数が減少した | |
| 08. その他（具体的に | ） |

⑥-3 これらの病棟でも病棟薬剤業務を積極的に実施すべきだと思いますか。 ※○は1つだけ

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 01. 全ての患者で実施すべき | 02. 患者ごとに必要な業務を実施すべき |
| 03. 医師等から依頼があれば実施すべき | 04. 実施すべきだとは思わない |
| 05. その他（具体的に | ） |

【⑦は、全ての施設がご回答ください。】

⑦-1 どのような取組が病院で行われれば、薬剤師の負担を軽減できると思いますか。具体的にご記入ください。

⑦-2 病院薬剤師がどのような業務を分担すれば、病院全体の働き方改革に貢献できると思いますか。具体的にご記入ください。

薬剤部責任者票の質問は以上です。ご協力いただきましてありがとうございました。
令和元年8月16日（金）までに返信用封筒（切手不要）に封入のうえ、ご投函ください。